

図書館主催の鶴川図書館の再編に関する第1回目説明会の簡易記録

2023年2月8日19時～20時30分@鶴川市民センターホール

(Iさんが参加中にパソコン入力したメモより)

司会:本日はお忙しい中おいでいただきまして誠にありがとうございます。・・来場者の個人情報保護から、来場者の録音・録画はお控えを。本日は20時半まで、資料の確認。3月4日のイベントのチラシ。ご意見ご記入用紙。席に伏せてお帰りください。まず図書館長のご挨拶。

館長:本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。町田市、財政情勢が厳しい、利便性向上のため。鶴川図書館が再編の対象。今回は今後の方向性について説明会。鶴川図書館は町田市の図書館8館のうちの一つ。最も小さい。50年以上の歴史。10年前までは来館者、貸出とも多かった。2012年に鶴川駅前図書館が開館。鶴川図書館の来館者、貸出冊数が減少した。ピーク時の三割減以下になった。鶴川団地図書館は、商店街建て替え。5年後にここを出ないといけない。公共施設の再編、機能を転換する機会ととらえている。20年度から地区協議会、商店会、鶴川第二地区第三地区の委員会、民生委員の協議会、子どもセンター、学校の関係者のご意見を伺った。ワークショップで多くのご提案をいただいた。それで市としての方向性をまとめることが出来た。地元鶴川の皆さまの力添えを頂戴したい。限られた時間ですがよろしく願います。

職員紹介:副館長、担当課長、企画地域支援係長(以下係長)と係員2人。
委託事業者 HITOTOWA の職員2人。

係長から説明:

はじめに、これまでの経緯、これからの方向性、方向性の実現に向けての4点。スライドの3, 4番。ここに至る経緯。町田市の近い将来、人口減少。市税収入の減少。財政状況の厳しさ。選ばれる街として未来への投資と、公共施設再編。図書館はこれまで2012年度に鶴川駅前、15年度に忠生図書館を開館した。2、貸し出しは2012年度をピークに減少。21年に貸し出しが、少し持ち直し。8館のうち築30年以上が5館、築50年以上が鶴川とさるびあ。鶴川図書館は個人貸し出しの減少率が大きい。団地の老朽化。代替機能の検討で、新たな価値を作りたい。19年度から地域との対話を続けている。21年2・3月にはワークショップを開催した。そこでいただいた意見を、まとめた。

これまでの経緯、社会状況の変化、財政状況、施設の老朽化、まなびを支える拠点。ネットワーク、地域課題への解決。変化するニーズに的確にこたえたい。これまでの図書館はありえない。未来の図書館の在り方。20年2月にアクションプラン。3月の見直しを求める請願は議会で不採択となった。

代替機能配置に当たっては、地域団体の支援。これまでの経過、アンケート、これは参考程度にご覧いただきたい。2年前のワークショップ。図書館機能を極力残してほしい、コミュニティの居場

所が欲しい。町田市5か年計画2022－26で、コミュニティ機能を併せ持つ市民協働型の運営へと変換。

スライド11:地域との対話、20－22年度に85回開催、のべ370人にご参加いただいた。図書館システムへの接続と司書の常駐、図書館機能。個人的な体感では半数からコミュニティ機能の要望があったと理解した。

スライド13:これからの方向性について。再編後の姿について検討。現状として、貸出冊数・来館者数が減少、鶴川地域は地区協議会など、コミュニティ活動が盛ん。課題として、図書提供機能をどう継続できるか、コミュニティ機能をどう強化するか、多様化する地域ニーズへの対応をどうするか。市民協働による運営で、多様な世代の人を引き付けて、巻き込んでいく。

スライド15:情報の交流機能。ブックカバー・町のアーカイブマップ作り。今後も継続して実施してほしいとの声もいただいた。

スライド16:本に触れ合う場と機会を継続的に提供。気軽に参加できる地域のコミュニティの場を作る、など3点。

スライド17:方向性、民設民営の地域施設へ転換。物販・飲食、地域が管理できる蔵書規模の図書提供機能とコミュニティ機能、など5点

スライド19:転換に伴うイメージ。公共図書館の本は置かないが、受け取りができるようにする。レファレンスは、駅前図書館で。これもここに経験者がいればできる。今は座席がないが、改修でゆとりある空間。次のスライドは写真中心、これは参考程度に。

今の鶴川図書館は居心地が悪い、再編によって子供たちの居場所をとる意見をいただいた。来年度改修する。子どもが安心して過ごせるように什器を増やす。滞在しやすいように。3月立ち上げの準備会。ワークショップで地域の皆さんと一緒に作っていく

スライド22:仮に、運営のイメージ案。地区協議会、自治会、商店会に担ってもらう。図書部とコミュニティ部。

スライド23:スケジュール。建て替えが終わる2033年度まで。25年度までに自主運営の準備、26年度から自主運営。

【質疑応答】市民参加者は約30名。

以下、質問:(Q)、回答:(A)と表記。市民側の発言者は、イニシャル表記。

司会:質疑応答の時間、なるべく多くの方に発言いただきたいので、一回につき質問は2つまで。

(Q)大蔵町のY:質問の前に確認。図書館が地域文化の役割に果たす役割でよいか。本日は、市の結論を押し付けるものではないと理解してよろしいでしょうか、市民に納得してもらうための説明会と考えてよろしいですね。理解ができるようにする説明会、・・・分かりました。

鶴川図書館を利用しているもの、図書館の存続を強く望むものがかなりの程度いると市は認識していますね。(そういう方がいる)

存続を願うものがまず知りたいのは、廃館にしなくてはいけない理由の説明がない。図書館は公平な知識を得る、民主主義の根幹。廃館にしなくてはならない理由があるのなら教えていただきたい。どうしてこの結論が出てきたのか、その経過が説明されていない。そこが分からない限り、市民は納得できない。納得は無理ですよ。その一番大事なところを知りたいと思って今日やってきました。お願いします。

(A) 公共施設再編が必要である。人口減少、老朽化。社会保障費はこれから増大していく。

Y: そのレベルの話ではないですよ。

鶴川図書館を、再編の対象として決めた。

Y: 必然性がないじゃないですか。

(A) 人口減少で税収が減る、高齢化が進んで、支出が増える。構造的収支不足。公共施設の再編は方向性。図書館は文化的な部分で地域に重要な役割を果たしている。総論がある中で、各論としてどんな形をすすめていくのか。3年かけて、話し合いを重ねてきた。

Y: 繰り返しはいいんですよ。どういう選択肢とどういふ選択肢を並べて、これにしたのかを教えてくださいと言っている。その理由が分からなかったら、納得できない。

(A) こちらからのお答えとしては、繰り返しにならざるを得ない。

Y: 存続させるためには、こういう考え方があるよねと考えたのか、どういふ選択肢があったのかを知りたい。

(A) どういふ再編があるのか。市のすべての施設において検討を行った。さるびあと鶴川、

Sa: 図書館以外の選択肢をあげてもらおうとわかり易いと思います。

(Q) 鶴川6丁目に住んでいる者です。図書館をなくさないでほしいという気持ちで、願いを聞いてもらいたいと思ってまいりました。先ほどのご説明で私が感じましたのは、No5のグラフ。鶴川図書館は小さい図書館で本も少ない、閲覧室もない。他の図書館とは比較にならない。残してもらいたい、太陽の広場で祭りを開きました。市民にアンケート、カードに書いてもらった。住民が気持ちよく答えてくれました。私と同じことを考えていると思った。・・・子どもたちも図書館大好きです。ずっと愛用しています。生活に不可欠。身近な図書館でとても大切です。なくさないでください。たくさんの方が集まりました。市の方もアンケートをなさっているのでご存じだと思います。私はそんなに大それた要望を言っているのではないのでは。多摩地区全体でも、町田市は図書館にかけられるお金が最低ランクと聞いています。それを削るのはどういふこと？スライド17について、物販や飲食ができる場をとあるが、商店街の中で商店を利用すればいい。共存する。町田市が運営費を補助というが、金額がどれぐらいかを知りたい。地域が設立する団体、どういふところが運営するのか分からない。手をあげる団体がいいが、そういうところが出なかったらどうなるのとの疑問がある。

(A) 図書館が商店街と張り合うのではなくて、現状では中央図書館には喫茶があるが、地域館では飲み物は蓋つきしか認められない。スペースがなくて現状できないところを変えていければいい。佐藤商店やパティシエなど商店街で買ったものを持ちこめるといい。図書館のレシートで割引が受けられたらいいという話をしている。補助はお答えがしにくい。図書館は一年に300日開館、そのために人が何人かいないと回せない。そこにかかる人件費は、民営化してもコストがかかる。100万200万では考えていない。運営団体、大枠で地域の方と一緒にやっていくことは決まったが、ボランティアコーディネーター、自治会、利用者。我々の趣旨に賛同していただいた方が多くはないがいらっしやった。想定している方が5、6人いる。読書会を続けている団体、福祉系、子ども支援。市の職員だけではできないので、再編を通じて新たな価値を作る。このことが、ひいては地域

のためになると考えています。

(Q) 鶴川3丁目のIと申します。職場は大蔵町。一番目の方の話を聞いて思ったのは、再編でなくて廃館ということ。行政は、マイナス点をはっきり出すことが必要。まずは廃館をしっかり出すこと。今後気を付けていただきたい。鶴川図書館の減少率が大きいとあったが、いついつを比較しているのか。

(A) 2012年が利用のピーク。鶴川駅前図書館が出来て何年かたっても、減少幅が大きい。

(Q) 近くに図書館が出来て、利用が減るのは当たりまえ。グラフで来館者数がいちばん落ち込んでいるのは中央図書館だった。グラフの目盛りは、同じですね。これからは、鶴川の減少率が少ないということは読み取れない。鶴川駅前図書館が出来るときの説明の時に、鶴川図書館は変わらずにやると説明を聞いた。補助金は、お金がないから図書館ができませんということだから当然下がるだろう。これは再編ではない。

鶴川でやる補助金の制度は鶴川独自のもので、これは成瀬ではありませんということですね。とても不安があります。補助金なので、申し込みがあって、団体が選ばれるということによいですか？

(A) そのあたりは、今後の検討課題。

(Q) 鶴川3丁目のTと言います。データのことで質問、スライドの5と6。鶴川図書館の落ち込みに関し、他と違っている。来館者数が推定値なのではないか？図書館をなくすことはこの地域の文化度が問われること。7町村が合併してできた山梨県北斗市では、7つの町に、人口3,4万の町に7つの図書館がある。その中には、別荘があった国語学者の金田一春彦図書館もできている。鶴川には白洲正子コーナーがある。そういう点はどうなのか。

(A) 市内の図書館には、全館でカウンターがある。行きかえりをカウントして、毎日職員が2分の1にしている。鶴川と金森が、コロナの後も下がった。

(Q) 鶴川6丁目のカベ？廃館はやめてほしい。鶴川図書館にいくらかかっていますか？運営費を補助すると言っているが、蔵書は買わないのでしょうか。運営費は人件費なのか、蔵書購入費用を含めていくらくらい想定しているのかをお聞きしたい。

(A) 鶴川図書館の運営は、人件費も含めて6千万。運営費は人件費が7,8割。図書購入費は持ちたい。鶴川図書館の本が古い。いまの額よりも大きな額を図書購入に出したい。町田図書館全体では12億円。本の購入費は別。

(Q) M: 私は地元でないのですが、町田で駅前図書館が出来るときの図書館長。市の中で当時、鶴川図書館の廃止話があったが、館をあげて市長を説得して鶴川図書館を残してもらった。元の館長として心配で参加しています。先ほど来、利用が落ちていると言われている。図書館は書架が生き生きしていないと利用が落ちる。町田の図書購入費が東京都で最下位。それもダントツに最下位。多摩地区全体の平均は240円だが、町田は80円。三分の一。町田は図書館にお金をかけていない。これが事実かどうかを確認して、お聞きしたい。

今の鶴川図書館よりも小さくなるのか大きくなるのか、子どもが絵本に出会う、人によって違う。お母さんが子供に好きな本を選ばせる。気に入った本を毎晩読んでもらう。いろんな種類の絵本があるのが大事。これは大人も同じ。子育て世代の人に町田に来てもらおうとしたら、そういうことが大事。経済活性化はコロナになるとダメになる。日常が豊かになることを、市政として実現して

ほしい。図書館は美術館・博物館よりもベーシックに重要。

(A) 令和4年の図書購入予算、多摩26市93400万、(M:そういうことではなくて)市民一人あたりで町田は80円。町田は26市で、詳細不明な1市を除いて25番目。規模については、施設の大きさは23番目のスライド。面積としては同じ。本棚を入れられるだけ入れる。2033年度の規模については、URさんとお話。今の段階では、まだ出来ていない。今よりも増やすのは難しい。お子さんたちが過ごしやすい場所、フードコートの一隅を想定している。

M: 最低限、地域図書館として機能するには3万冊の蔵書が必要で、その7分の一が毎年入れ替わること。それ未満だと、1年経つと誰も見向きもしなくなる。つまり本の提供機能が機能しなくなる。図書コミュニティ施設とは言わない本がいい。率直に言われた方がいい。

(Q) 鶴川6丁目のHと言います。物販、飲食できるようにするというが、これは魅力にはならない。鶴川図書館の縮小で議論が進んでいる。鶴川図書館と鶴川駅前図書館と、グラフを見る限り、大きな駅前図書館の方が先に淘汰されるべきではと。

(Q) 小野路地区のSと言います。図書館廃止ありきで始まっている。このことをちゃんと言うように段々になってきたが、最初は臆面もたさずにワークショップをやった。意見を聞いて、その結果廃止しますと言った、これは市役所のサギ。こういうことではいけません。再編というのは、どの施設をとすることが必要だが、結局お答えがなかった。八王子のことなど、市民の知恵を集めてほしかった。そこで皆さんの知恵を借りると維持できると思います。もう少し考えてほしい。あと二年間は、公立の図書館でしょ。廃止ありきでない議論をやってほしい。皆さんの知恵が出ると思いますが。

(Q) 鶴川地区協議会のN会長: 今までの皆さんの話を聞いて、鶴川は人口10万人。町田全体の23%。鶴川の文化施設は遅れている。図書館の問題も、そういう風に考えたほうがいい。鶴川6丁目の図書館を50年前に作った時には、鶴川1-6丁目と大蔵・広袴の一部の人しか使えなかった。能ヶ谷・三輪、鶴川1, 2丁目の人しか、鶴川駅前図書館は使えない。人口10万の土地には図書館が2つあっていい。いま大蔵・真光寺・金井の人は徒歩圏の図書館が使えない。真光寺で私は町内会長をしています。真光寺中学がいま300人。10年後に160人になって真光寺と薬師中が統合される。小学校も金井との統廃合。そういう中で図書館の問題も考えないといけない。基本的には、市議員、市長が考えることだが。10万人の都市に2つの図書館は当たり前。文化施設がいっぱいあることで、子どもたちを育てるために図書館を。大蔵小、真光寺小に廃校後は図書館を入れる。廃校後の本町田小を桜美林に50年で貸したのは、町田市の大失敗だった。ほとんどタダで売り渡したようなもの。学校はなるべく市民が使う施設にする。大蔵小をワンフロア図書館にする。残りのフロアを市民会館にする。鶴川図書館を再建する。URに家賃を払わないようにして、そのお金は蔵書を買う方に回す。3年後に図書館を廃止するという。先ほどのイラストだと、蔵書は1000か2000冊。プランを詰めていけばいい。地区協議会としてかかわっていきたくて思いますが、最終的には大蔵小・真光寺小に公共図書館をと持っていきたい。

Sa: 少子高齢化で税金が減る、再編が必要。そういうことは一般論としては同意する人もいるかもしれない。しかしそれが図書館廃止とつながる説明がない。野津田公園の玉突きで、バラ園を移動したりしている。モノレールを通そうとして、くねくねしている。そういったお金を使っている中で、なぜ図書館廃止なのか。疑問としては、入館者が減っているのになぜ貸出冊数が増えているの

か。「HITOTOWA」は、図書館ノウハウを持っているところではないので期待は正直できない。中央図書館ができた当時は、毎年2万冊なくなっていたと聞く。本の並べ方は、専門の司書でないと難しい。素人だと『奥の細道』が旅行ガイドのとなりに並べられたりするそうだ。市民協働でつぶれた図書館も聞く。市の見通しをお聞かせください。

(A)来館が減っているのに貸出冊数が増えている。鶴川図書館は滞在時間が短い。予約した資料の受け取りが多い。一人当たりの貸出冊数が多い。駐車場が近くにある。子連れで30-40冊借りていくこともある。駅前図書館は、来館者数のわりに貸し出しが少ないというお話もあったが、滞在型。ここで過ごすタイプの図書館。大和シリウス図書館、年間何百万人が入館(⇒図書館を利用せずコーヒーを飲みに来ただけの人もカウント。さらに右奥のお手洗いを使うとダブルカウントされるのは先年の町田図書館協議会会長のYさんの発見。誤解を招く発言だと思う:記録者I)。滞在が多い。貸出冊数は少ない。鶴川駅前図書館は居場所で借りる人が少ない。

…市民協働運営。図書館のノウハウをどう伝えるか。補助金を出すことになったとしてもすべて丸投げではなくて我々も一緒になって作っていく。選書、レファレンス。駅前図書館は指定管理者だが、毎月会議を開いている。中央図書館5階に入ってもらっている業者さんとも、毎月会議。図書館業務をやったことのない人にやってもらうので、丁寧に進めたい。八王子の、Soさんに話していただいた、ここはみなみ野の駅に近いところ。市民が、司書資格を持たない人が働いている。八王子市の会計年度任用職員が1~2名いる。業務振り分けは、原則として市民が読書相談にもあたっている。抽象度の高い質問には司書資格のある会計年度職員と替わっている。鶴川でもやれば、司書資格を持っている市民にもご参加いただけるのではと思っている。利用者にはいかにサービスを提供するか。外の人が町田の図書館だと独自ルールが多すぎるので、業務の簡素化を。資料の受け渡しに特化して。

So:八王子方式でやりましょう。

M:地域の方に活躍という話だが、図書館で30年仕事をして、図書館ではカウンター業務がいちばん核心。利用者の内心に関わる。アルバイトの方が、友達が借りに来て「こんな本借りているの」と言ったために不愉快になった案件があった。在職中の経験で、臨時職員に応募してくる人は家の近くで働きたいが、遠い地域館でいいですかと配置していた。顔見知りの人から本を借りるのが嫌だという利用者がある。そういうことを考えてほしい。

(Q)2003年から広袴。04年からおやじの会のSi。今日から12日の間で我々の間で集まる機会が必要かなと。町田中央からおいでになった職員の皆さんは、鶴川のことをあまりご存じない。22ページ、運営のイメージ。理事会があってネットワーク、こういうものが今はない。作っていくというのが、こういうイメージ。今度12日が同じ話だったら、もう行かないよねと。最初Yさんがおっしゃった図書館とはそもそも何なんだという議論がない。廃止される、かなしさくやしき。民主主義のために。職員の後ろ向きな態度が根底にある。一緒に作っていくという姿勢が欲しい。やらされているからやる。これでは図書館がかわいそう。コミュニティの写真、2016年に町田市とURとアクションプラン48プランを作ったが、これが実現できていない。今、図書館という一つの箱に集中砲火。図書館にほかの47が押し寄せている。48プランができなかったのはなぜか、検証が必要。鶴川なら、浪江度をしっかり受け継いでいくことが必要。この辺りはどうですか？前向きな気持ちはありますか？

(A)再編、集約という、一般的な言葉のとらえ方としてゼロになる。16年3月のアクションプラン。我々としては、再編を進めなくてはならない中で、これだけの人数が集まるのはすごいこと。改めて、批判的な意見もエールとして受け止めて。難しいのは確か。具体的な部分はこれから。計画に命を吹き込むのは皆さん。火をともしただけると良いかな。我々も一緒にやりたい。(＜これでも町田の図書館プロかい、おいおい?? :Iの独白)

本日は鶴川図書館の説明会にお越しくださいましてありがとうございました。3月4日のトライアルイベント。他のご意見は、用紙に。ご参加いただきましてありがとうございました。8時59分散会。